歩いてみよう!! 古(いにしえ)の風を感じながら…

雲雀(ひばり)のさえずる空の下、風薫る菜種畑に戯れながら、貨物列車の連結車両の数を数えていた。川ではメダカやオタマジャクシが泳ぎ、田では農耕も始まり、活躍の主役は、「牛」であった。

客車の車窓から見える景色は、夏の強い陽射しの中風にたなびく穂の若葉が広がっていた。遠くには小川で遊ぶ少年たちの姿も見えた。

月あかりを頼りに遅くまで続く輪刈作業。その時々にライトを点灯して通り過ぎる客車。その後に続く脱穀作業は、一家総出の作業であった。指定時間の列車が見えた時の「おやつ時間」が楽しみだった。脱穀作業が終わると、落穂拾いに田を訪ねる人の姿に「義父」の訪れを感じた。「りんこー」と私の家族愛(義父 義之)

岡山臨港鉄道の懐古写真

◉旧国鉄大元駅舎である。岡山臨港鉄道の乗客は、この駅舎を通って臨港鉄道のプラットホームに赴いた。
写真は、JR大元駅前広場にある観光案内板に掲載されている。

◉蒸気機関車7号は、片上鉄道で使われていたアメリカ製のもので、常時ボイラーを焚いて走行していた。開業半年後には予備車輌となり開業後2年間だけ在籍した。
（掲載の写真は株式会社岡山臨港提供）

◉旧大元駅の岡山臨港鉄道プラットホームに停車中のディーゼル客車キハ1003。この客車は、昭和34年に予備車輌と昼間の使用を目的に導入された。手前の線路は、当時の国鉄宇野線である。（昭和50年7月 上原 克章 撮影）

◉旧大元駅の引込線に止まるディーゼル機関車DD1351。昭和35年12月に導入され、標準馬力370馬力を2基を備えた強力な機関車であった。名実ともに臨港鉄道の貨物輸送を牽引した。
（昭和59年3月 上原 克章 撮影）

◉運転営業廃止記念乗車券。ディーゼル客車キハ5001と機関車DD1351が写る。（株式会社岡山臨港提供）

制　　作：岡山市立南公民館・主催講座「地域研究会」
発 行 日：2022年3月31日
連 絡 先：〒702-8027 岡山市南区芳泉三丁目2番2号
☎ 086-263-7919
参考文献：「岡山臨港鉄道50年史」
（岡山臨港鉄道株式会社　発行 2000年）

※岡山市立南公民館開館40年記念事業の一環として制作した。
※文章・写真の無断転用は厳禁します。

MINAMI KOUMINKAN

岡山臨港鉄道 廃線跡を歩く

大元駅跡～岡南元町駅跡

大元～新保付近を走るディーゼル客車 キハ5001
（昭和59年9月：上原 克章 撮影）

岡山臨港鉄道は、岡山市の岡南工業地帯への貨物輸送と鉄道沿線住民の旅客輸送を目的として設立された。

当時としては大変珍しく株主に岡南工業地帯の企業4社とともに岡山県と岡山市が名を連ねた。これは、今で言う「第3セクター」の方式であった。

昭和26年（1951年8月1日）に営業を開始し、昭和59年（1984年12月29日）に最後の日を迎えるまで、一日も休むことなく運行された。

運行距離は大元駅から岡山港駅までの8.1kmで、所用時間は16分であった。運転営業廃止までの総輸送量は、貨物が総計564万t、人員は総計1,262万人であった。

岡山臨港鉄道路線図

岡山臨港鉄道が廃止された昭和59年当時の客車停車駅は、大元駅→岡南新保駅→岡南泉田駅→岡南福田駅→並木町駅→岡南元町駅の6駅であった。岡南元町駅から続く南岡山駅と岡山港駅の2駅は、その当時すでに旅客取扱を廃止していた。
大元駅から岡南元町駅区間 6.6km は、12分ほどかかった。その区間の運賃は開通当時が10円、鉄道廃止の昭和59年が120円であった。当時の車輌のうちディーゼル客車キハ7003は「ちどり保育園」に、また機関車DB102は「株式会社 岡山臨港」本社に展示されている。

❶大元駅跡

岡山臨港鉄道の始発駅で、プラットホームは旧国鉄宇野線の大元駅プラットホームと隣接していた。
JR大元駅は平成6年に高架駅へ変貌した。同時に、臨港鉄道線路跡地のうち、大元駅から岡南泉田駅までの全長約2kmが歩行者・自転車専用の遊歩道「臨港グリーンアベニュー」に整備された。

❷岡南新保駅跡

臨港鉄道開通当初、大元駅～臨港泉田駅間（2.3km）に停車駅がないため、地元住民から新駅開設の要請が強くあった。そのため、当駅は約2ヶ月遅れて10月20日に開業した。当初は臨港新保駅と呼ばれた。
現在、旧岡南新保駅がそのままリニューアルされ、運行当時の面影を偲ばせている。

❸岡南泉田駅跡

臨港鉄道開通当初は臨港泉田駅と呼ばれた。昭和35年に岡南泉田駅に改称された。
昭和43年に荷物・貨物取扱も開始し、手小荷物・貨物車扱駅となった。旧岡南泉田駅は、右側の建物とその展示場辺りにあった。手前の道路は臨港鉄道線路跡地で、現在、市道泉田福成線となっている。

いにしえまっぷ

※昭和26年頃 海軍測量部発行の地形図（岡山南部）を元に作成

岡山臨港鉄道旅客扱駅

開通当時（昭和26年）	廃線当時（昭和59年）	走行累計距離
❶大元駅	❶大元駅	
❷臨港新保駅	❷岡南新保駅	1.4km
❸臨港泉田駅	❸岡南泉田駅	2.3km
❹臨港福田駅	❹岡南福田駅	4.4km
❺臨港藤田駅	❺並木町駅	6.1km
	❻岡南元町駅	6.6km
❻汽車会社前駅※下記参照		6.9km
❼岡山港駅※下記参照		8.1km

※汽車会社前駅は昭和35年に南岡山駅に改称。その後、南岡山駅が昭和43年・岡山港駅が昭和48年に、それぞれ旅客扱いを廃止し貨物車扱駅となった。

❹岡南福田駅跡

臨港鉄道開通当初の乗客は他駅と比べ多かったが、バス路線慈圭・労災病院線（昭和32年）と空港線（昭和37年）の開通に伴い、乗客が6割近く減少した。
旧岡南福田駅は、川向こうのガードレール辺りにあった。
貨物車扱駅でもあり、倉庫群は昭和39年から「株式会社岡山臨港」が使用している。

❺並木町駅跡

臨港鉄道開通当初の駅名は臨港藤田駅で、駅名は児島湾干拓者「藤田傳三郎」に由来すると言われる。
その後、岡南藤田駅を経て昭和53年に並木町駅へ改称された。当時の並木町駅界わいは、岡南地区有数の住宅街で利用客が多かった。現在も住宅が密集しており、並木町駅跡は判りづらい。

❻岡南元町駅跡

旧岡南元町駅は、昭和43年、福島小学校東北隣に新設された旅客扱駅の終点駅で、手前の建物とその横の駐車場辺りにあった。写真の左奥の赤い屋根の建物が、「株式会社岡山臨港」本社社屋である。そして、その右側に見える青色の貨車が臨港鉄道で活躍していたディーゼル機関車（DB102）である。